

ひと・夢・まち 町長コラム

恥は堂々とかけばいい。（平成31年3月号）

（西郷隆盛・十の「^{おし}訓え」vol.9）

人生というのは、「山あり谷あり」などと言われますが、谷底から山の頂を見ている時の方が多いような気がします。ただ、うまくいかない時に怖いのは、再び失敗するのではと恐れ、新たな挑戦ができなくなることです。正道を行う勇気がなくなってしまうことではないでしょうか。

西郷さんの人生もいつも順風満帆ではなかったようです。二度におよぶ島流しなど幾多の失敗を重ねながらも、自分を信じ、これから先の国の姿を想像しながら、先頭に立ってきました。「生き恥」をさらしながらも、生き残った我が身を振り返り、「自分だけが生き残ったのは、まだ果たすべき使命があるからなのだ」と、自問自答していたのです。

人生において、過去を変えることはできません。しかし、現実を受け入れて前に進むのなら、やり直しはいつだってできます。正道を貫くために、間違いや過ちを認めることは何の恥でもありません。間違っていることをごまかしたり、取り繕ったりする方が恥ずかしいことだと、西郷さんの『訓え』が気づかせてくれます。

失敗や過ちを恐れず、恥は堂々とかいて正道を行い続ける。前に進んだ分だけ、未来は充実しているはずです。